

2018年度 教育学部 帰国生入試 問題用紙

受験番号					
氏名					

「小論文」
生涯教育学専修

次の問いに答えなさい。2問とも解答すること。

設問1. 以下の文を読み、下線部の問題の本質とは何か、考察しなさい。

一九九〇年代の初めにはポスト青年期は、豊かなモラトリウム期を謳歌する「贅沢な若者たち」のことであった。だが九〇年代後半には、深刻な経済不況と就職難に直面して、学校から仕事へとスムーズな移行ができなくなった「不安定な若者たち」の層が増大した。成人後も親への依存が果てしなく続き、晩婚化・非婚化も急ピッチで進み、出生率の著しい低下が進行している。二〇代、さらには三〇代すらも、いわゆる「一人前」に向かって前進する時期とは必ずしもいえなくなった。

欧米先進国では、成人期への移行に異変が生じていることに対する認識は日本よりずっと早く、一九八〇年代に現れた。若年層の失業問題、ホームレスの発生、貧困化と犯罪増加、未婚の母問題、同棲の一般化などが社会現象となったため、若者に対する関心が高まり、研究者、政策当局、実務家たちの間で、ポスト青年期の研究や社会的な検討が進んだのである。だが、日本では社会経済環境の変化が遅かったために若者に対する社会の関心は一貫して薄かった。とくに若者が重大な困難に直面しているという認識はほとんどなかったといっても過言ではない。

「パラサイト・シングル」*論は、若者世代に対して内心苦々しい思いを抱いていた大人たちに火をつけた。経済停滞や少子化など不安要因の“元凶”として、「豊かな時代に成長して、いつまでも親に寄生する自立しない若者」をバッシングする風潮が広がった。

若者の就職難が顕在化・長期化し、にわかに社会的関心となったが、ここにも日本の特徴がみられる。就職難や失業という雇用および経済問題よりも、年々増加を続けるフリーター現象への関心の方が高いのである。この現象が「大人になりたがらない若者」の象徴として、パラサイト・シングル現象とどこか重なる点に世間の関心は集まるのであろう。しかし、これらの議論は断片的で、若者を一面的にとらえる傾向が強く、問題の本質を踏まえたものにはなっていない。

宮本みち子『若者が《社会的弱者》に転落する』洋泉社、2002年, pp. 3-5。

* 学校卒業後、親と同居し、基礎的生活条件を親に依存している未婚者。山田昌弘『パラサイト・シングルの時代』（ちくま新書, 1999年）の出版により注目された。

設問2. 社会教育施設である公民館について次の問題に答えなさい。

社会教育法第22条は、「公民館の事業」として、

- (1) 定期講座を開設すること。
- (2) 討論会、講習会、講演会、実習会、展示会等を開催すること。
- (3) 図書、記録、模型、資料等を備え、その利用を図ること。
- (4) 体育、レクリエーション等に関する集会を開催すること。
- (5) 各種の団体、機関等の連絡を図ること。
- (6) その施設を住民の集会その他の公共的利用に供すること。

と記している。公民館の主催事業は一般的に「学級・講座」といわれ、(1)(2)(4)が相当する。他の行政部門や施設、民間事業者でも所謂「生涯学習講座」が開催されている。「学級・講座」と「生涯学習講座」の違いはどこにあるのか。

受験番号					
氏名					

「小論文」
生涯教育学専修

採 點 欄

[illegible]